



平成 22 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ジ ー エ ス ア イ
代 表 者 名 取 締 役 代 表 執 行 役 社 長 兼 CEO イ ン ・ ル オ
(コード番号:2160 東証マザーズ)
問 合 せ 先 経 営 管 理 部 田 中 忍
(TEL. 03-5326-3097)

「継続企業の前提に関する注記」記載解消に関するお知らせ

当社は、本日発表の「平成 21 年 12 月期決算短信」において、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

当社グループは、創薬ベンチャーとして複数の創薬候補化合物（F647、F351、F1013）をパイプラインに持ち、中国で臨床試験と上市に向けた活動を行い、新薬の臨床上の安全性と有効性の検証を確立した後に日本や欧米に展開することを目的として事業活動を行っております。

創薬ベンチャーという性質上、研究開発事業には多額の費用を要し、また投資資金の回収も他の産業と比較して相対的に長期に及ぶため、ベンチャー企業が当該事業に取り組む場合は、一般的にキャッシュ・フローのマイナスが先行する必然性があります。当社グループも創業以来継続的に営業損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローも継続的にマイナスの状況にあり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していたため、平成21年3月期第3四半期決算短信から平成21年12月期第2四半期決算短信まで「継続企業の前提に関する注記」の記載をしておりました。

当社グループは当該状況を解消すべく、平成21年1月23日の取締役会において新経営計画を策定し業務の効率化と大幅な経費節減を図ってまいりました。策定した新経営計画は経営資源をF647とF351の臨床試験及びF647の製造・販売の準備に集中させることを目的にしております。

①当社グループは、当社及び当社の連結子会社であるShanghai Genomics, Inc.において、人員を大幅に減少いたしました。また前連結会計年度に就任していた12名の取締役及び監査役は、第8期定時株主総会で委員会設置会社に移行したことに伴い6名まで減少いたしました。

②また、当社グループは、当社本店の移転や諸経費の節減などにより人件費以外の販売費及び一般管理費も削減いたしました。

これらの結果、営業損失と営業キャッシュ・フローのマイナスは大幅に改善いたしました。

また財務面におきましては、平成21年11月20日に取締役会決議いたしました第三者割当増資による新株式10百万円の払込と、平成22年1月27日に完了した新株予約権432百万円の払込により、平成22年1月27日に開示しております通り自己資本の充実を図りました。「第30回新株予約権（希薄化防止型行使価額修正条項付）の月間行使状況並びに行使完了に関するお知らせ」をご参照ください。

以上のような本業への経営資源集中による徹底したコスト削減と自己資本充実による財務基盤の健全化の進展により、当連結会計年度において継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断し、平成21年12月期に係る決算短信の連結財務諸表及び財務諸表において、当該注記の記載を

解消することといたしました。

当社グループでは、引き続き業務内容の充実による企業価値の向上、経費削減と財務基盤の健全化に努めてまいります。

以 上